

コンタクトスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニア手術例の検討

○熊西 俊介 (くまにし しゅんすけ) (MD)¹⁾, 森山 徳秀 (MD)¹⁾, 糸原 仁 (MD)¹⁾,
木島 和也 (MD)¹⁾, 吉矢 晋一 (MD)²⁾

¹⁾ 宝塚市立病院 整形外科

²⁾ 兵庫医科大学 整形外科

【目的】

コンタクトスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアの手術成績と復帰率を検討すること。

【方法】

対象はコンタクトスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアで顕微鏡視下ヘルニア摘出術を行った9例。全例男性で、大学生であった。アメリカンフットボール(以下アメフト)が4例、ラグビーが5例であった。年齢は平均20.2歳で、競技レベルはアメフトで全国レベルが3例、関西大学リーグが1例。ラグビーは関西大学リーグ1部が4例、2部が1例であった。罹患椎間はL4/5が5例、L5/S1とL4/5が1例、L5/S1が3例であった。術後経過観察期間は平均28ヶ月(5ヶ月～5年6ヶ月)であった。腰痛JOA score, SLRT, 復帰率について検討した。

【成績】

術前の腰痛JOA scoreは平均17.1点、術後平均26.3点、最終経過観察時27.3点と改善していた。SLRTは術前平均40°であったが、術後は2例でtight hamstrings 70°認めたがSLRTは全例で消失した。元のレベルへのスポーツ復帰率は9例中8例で89%であった。復帰できなかったのはアメフトの1例で、日常生活動作は問題なかったがコンタクト時の疼痛のため復帰を断念した。

【考察】

スポーツ選手の中でも腰椎や椎間板に負担のかかるコンタクトスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアの手術後のスポーツ復帰に関する報告は少ない。2011年WellingtonはNFL選手のヘルニア摘出術後復帰率は78%と報告した。我々の結果は9例と少ないが89%の復帰率であった。

【結論】

コンタクトスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアの手術後のスポーツ復帰は悲観するものではなく、必要な場合はヘルニア摘出術を行うべきである。